

平成30年産 大麦『ファイバースノウ』栽培こよみ

平成 29 年 8 月
アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

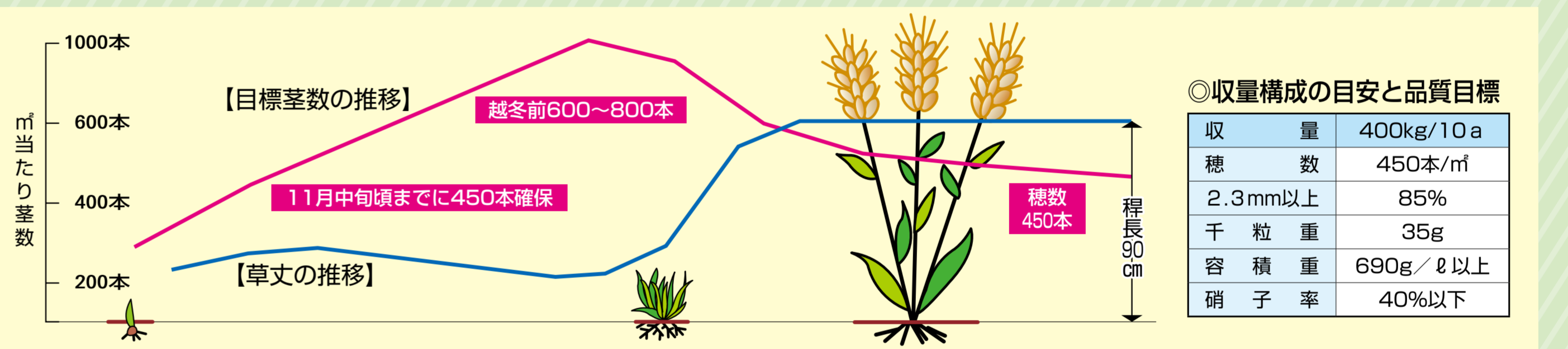
地域ぐるみの計画的なブロッコローションで連作を回避しましょう

9月	10月	11~12月	積雪期間	3月	4月	5月	6月
★播種前の排水対策は確実に	★耕起は丁寧に★適正播種量で苗立ち確保	★排水溝は随時手直しする			★赤かび病防除の徹底		★適期刈取りで高品質麦に
<p>排水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 稲刈り後、直ちに額縁排水溝を設置。 ● サブソイラーによる心土破碎と弾丸暗渠の設置。 <p>播種前の排水対策 ポイント①</p> <p>は重点技術対策</p>	<p>土壌pHの矯正</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耕起前に粒状貝化石を150~200kg/10a施用 <p>ポイント②</p> <p>除草剤散布</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 条間の雑草が少ない <p>ポイント③</p> <p>施肥・耕起・砕土・作溝・播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耕起・播種作業は1日で終了する。 <p>ポイント④</p>	<p>排水溝の補修</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 排水溝を補修して湿害を発生させない。 ● 播種1ヶ月後の追肥により茎数(450本/m²)を確保する(分施肥系の場合)。 			<p>赤かび病防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 融雪直後に野そ駆除を実施する。 ● 融雪直後の追肥は遅れずに施用し、茎数を確保する。 ● 融雪直後の追肥は遅れずに施用し、茎数を確保する。 ● 融雪直後の追肥は遅れずに施用し、茎数を確保する。 	<p>刈取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 刈取りの目安 ● 刈取りの目安 <p>ポイント⑤</p>	<p>収穫後の圃場管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大豆や野菜栽培による高度 ● 大豆や野菜栽培による高度 <p>ポイント⑥</p>

初期生育の確保が重要

発芽・苗立ち確保のポイント

1. 稲刈り直後から排水溝を設置し、砕土率を高める。
2. 石灰質資材の施用による酸度矯正と堆肥施用による土づくりを実践する。
3. 年内の生育量を確保するため、播種適期の10月上旬を中心に播種する。
4. 播種時期に応じた適正播種量を厳守し、目標苗立本数を確保する。
5. 播種後、速やかに除草剤を散布し、肥料成分が雑草に奪われるのを防ぐ。



排水対策

◎排水対策を確実にい行い生育量の確保に努める

排水対策

- ①水口はしっかり止める
- ②額縁排水溝は早めに設置する
- ③排水口は深く掘り下げる
- ④サブソイラー等による心土破碎で透水性を改善
- ⑤播種直後に基幹排水溝を設置
- ⑥排水溝は確実に連結する

排水対策

排水溝 (稲刈後直ちに実施)

排水口は額縁排水溝より深く掘り下げる

【溝掘後の圃場】

畦 3m

額縁排水溝 20cm

30cm以上

土づくり・播種

●土づくり(pH矯正)

- 土壌改良資材を施用し、土壌のpH6以上を確保する
- 深耕により作土深を確保し、根域を拡大させる
- 基準となる基肥量を確実に施用する

●播種時期に応じ、適正量を播種する

- ①播種適期は10月上旬
- ②生育量を確保するため10月中旬までには播種を完了する
- ③栽培面積が大きい場合は9月末より乾いた圃場から計画的に播種する

※土壌診断の結果 酸性が強い場合は多めに施用する

●播種時期と播種量の目安

播種期	目標苗立数(本/m ²)	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月26~30日	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
(10月中旬)	(200)	(8.5)	(9.0)

※ドリル播種深度は3cm程度とする

雑草防除

●除草剤を適期に散布し、赤かび病等の病気を媒介する雑草を生育させない

除草剤名	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法	適用雑草
トレファノサイド乳剤	播種後発芽前(雑草発生前)	薬液 300mℓ・水 100ℓ	土壌表面散布	一年生雑草
トレファノサイド粒剤2.5	播種後発芽前	4~5kg	土壌表面散布	(ツクサ、カヤツリグサ、キク、アブラナ科を除く)
ボクサー	播種後~麦2葉期(雑草発生前~雑草発始期)	薬液 500mℓ・水 100ℓ	土壌表面散布	一年生雑草

※表面散播では使用できないので注意する

赤かび病防除

●適期に2回確実に実施!

施用時期	薬剤名	使用量及び散布液量(10a当たり)
1回目 穂揃期(開花始め)	トップジンM粉剤DL	4kg
	トップジンM水和剤	1,000倍 150ℓ
2回目 1回目散布の7日後	ワークアップ粉剤DL	3kg
	ワークアップフロアブル	2,000倍 150ℓ

赤かび病被害粒

緑肥作物による地力増進

●栽培体系と効果

●主な緑肥作物

作物	クロタラリア
生育特性	草長 1.5~2m 生草量 4t/10a程度
播種期	6月上旬~7月上旬
播種量	5~6kg/10a
すき込み時期	普通種: 播種後50~70日 広葉種: 播種後60~80日
特徴	窒素濃度は高く、土壌中での分解が速いため、肥料としての効果は高い

●栽培体系と効果

大麦(前年9月~当年6月)

クロタラリア(当年6月~9月)

水稲(翌年5月~9月)

効果

- ・大麦あと圃場の雑草とカメムシの発生抑制
- ・緑肥作物による地力回復
- ・緑肥あとの水稲栽培における基肥減肥

※麦跡の緑肥栽培はカメムシ等対策により7月上旬までの播種としています。

※安全安心な大麦を生産、販売するために『生産記録簿兼 GAP チェックシート』を記帳・提出しましょう。